

# 現代世界の課題の探索と協力の実践

-ネパール支援プロジェクト-



## 最初からのやり直し。ネパールプロジェクト2期

①背景・目的：ヤギプロジェクト、ゲストハウスプロジェクトの失敗、今までの主要メンバー達の就職活動や留学による離脱で、今年では既存のメンバー2人と新たなメンバー5人で今までの失敗実績のもと、「ネパールで何がやりたいのか」から考え直す。それから学外でも使えるグループ名へ変更し、2回の合宿、1回の渡航を通じて関心や感じたことを踏まえ、メンバーそれぞれが3つの小プロジェクトに分かれる。

子どもの遊び場PJ「ネパールの子どもたちに遊び場を提供する。」

スタディーツアーPJ「スタディーツアーでネパールと日本をつなぐ役割を果たす。」

女性問題PJ「人身売買被害者たちの社会復帰や経済的自立を目指す。」

②活動内容の概要：子どもの遊び場PJ「ラムジュン群にある小学校で、竹を使った遊具（竹馬、シーソー、タイヤのやつ）を村人とともに作った。室内では、どんな公園で遊びたいか、子供たちに色鉛筆を使って描いてもらった」

スタディーツアー PJ「12/7,8で行われたゼミ合宿のロードマップの内容を書く。」

女性問題PJ「女性問題の中で特に人身売買の被害者の支援に焦点を当てて活動。様々な団体や関連施設と協力し合い、最終的に彼女たちの社会復帰、経済的自立を目指す。ネパール現地で入手しやすい材料を使って彼女たちの力を借りて質の高い物を日本に輸入して販売することで彼女たちが経済力を持てるようにしたい。」

③今後の可能性：子どもの遊び場PJ「自分たちの作った遊具が、半年後どのように使われ、どんな役割を果たしているかを評価する。」

スタディーツアーPJ「2019年3月の渡航で、防災マップ作成のためにシンドパルチョーク郡全体のマップを作る」

女性問題PJ「実際販売代行をしているAWEPや途上国で作られた質のものを販売しているマザーハウスに話しを伺い、相談し、実現に近づく」

■学生：9名（氏名 キム キョンテ、瀨瀨真菜、山本 しずく、伊藤 礼佳、入山 都香、濱本 菜々美、皆川 華野、長友 彩夏、南條 佑太）担当教員：小林 誉明